

# 当院における食道癌症例の検討

細田健司 小嶋裕一郎 廣瀬純穂 岩本史光

津久井雄也 吉田貴史

鈴木洋司 細田和彦 廣瀬雄一 望月 仁<sup>1)</sup>

須貝英光 羽田真朗<sup>2)</sup> 萬利乃 寛<sup>3)</sup> 小俣政男<sup>1)</sup>

山梨県立中央病院 消化器内科<sup>1)</sup>

同 外科<sup>2)</sup>

同 放射線科<sup>3)</sup>

## [目的]

食道癌症例の治療成績や予後を検討し今後の課題を明らかにする。

## [方法]

2006年10月から2009年9月までの3年間に当院で癌登録された患者のうち検討可能な79例につき病期別の治療法、予後につき検討した。

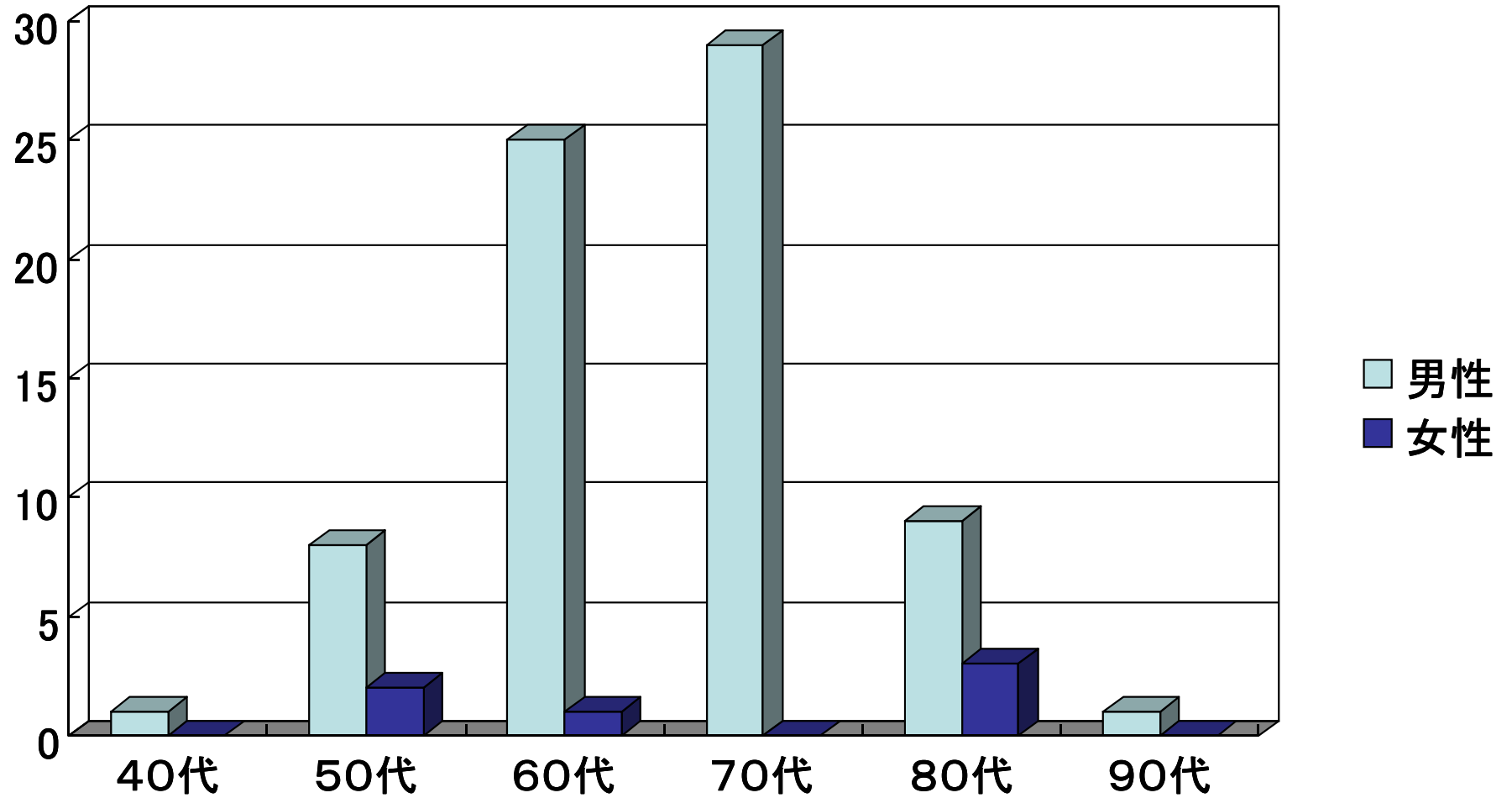
# 対象

79人(40歳—92歳;平均69.7±9.8歳)

男性 73人(40歳—92歳;平均69.8±9.5歳)

女性 6人(50歳—83歳;平均68.6±15.5歳)

# 年齡分布



# 病理

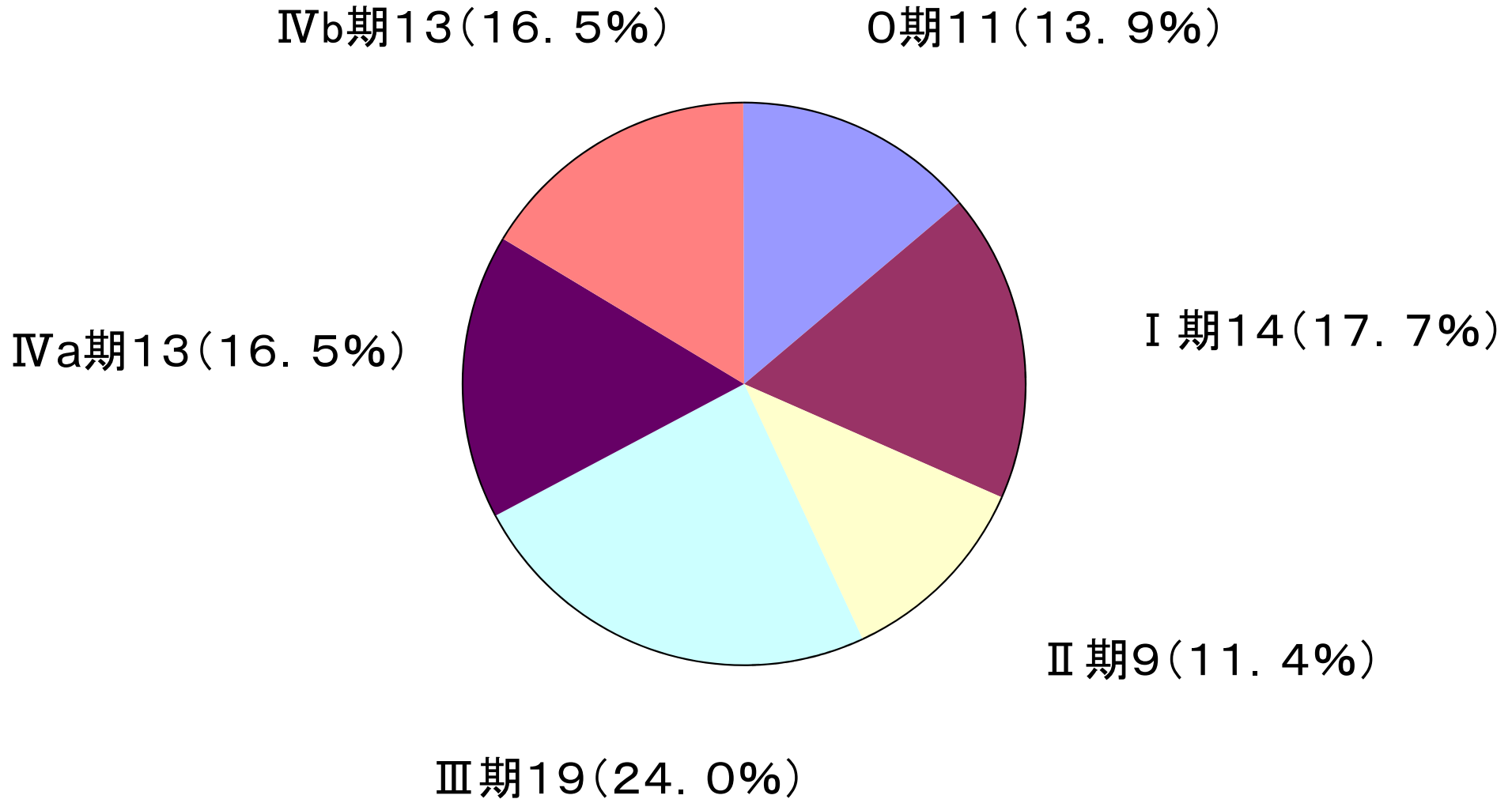
Squamous cell carcinoma 76

Adenocarcinoma 1

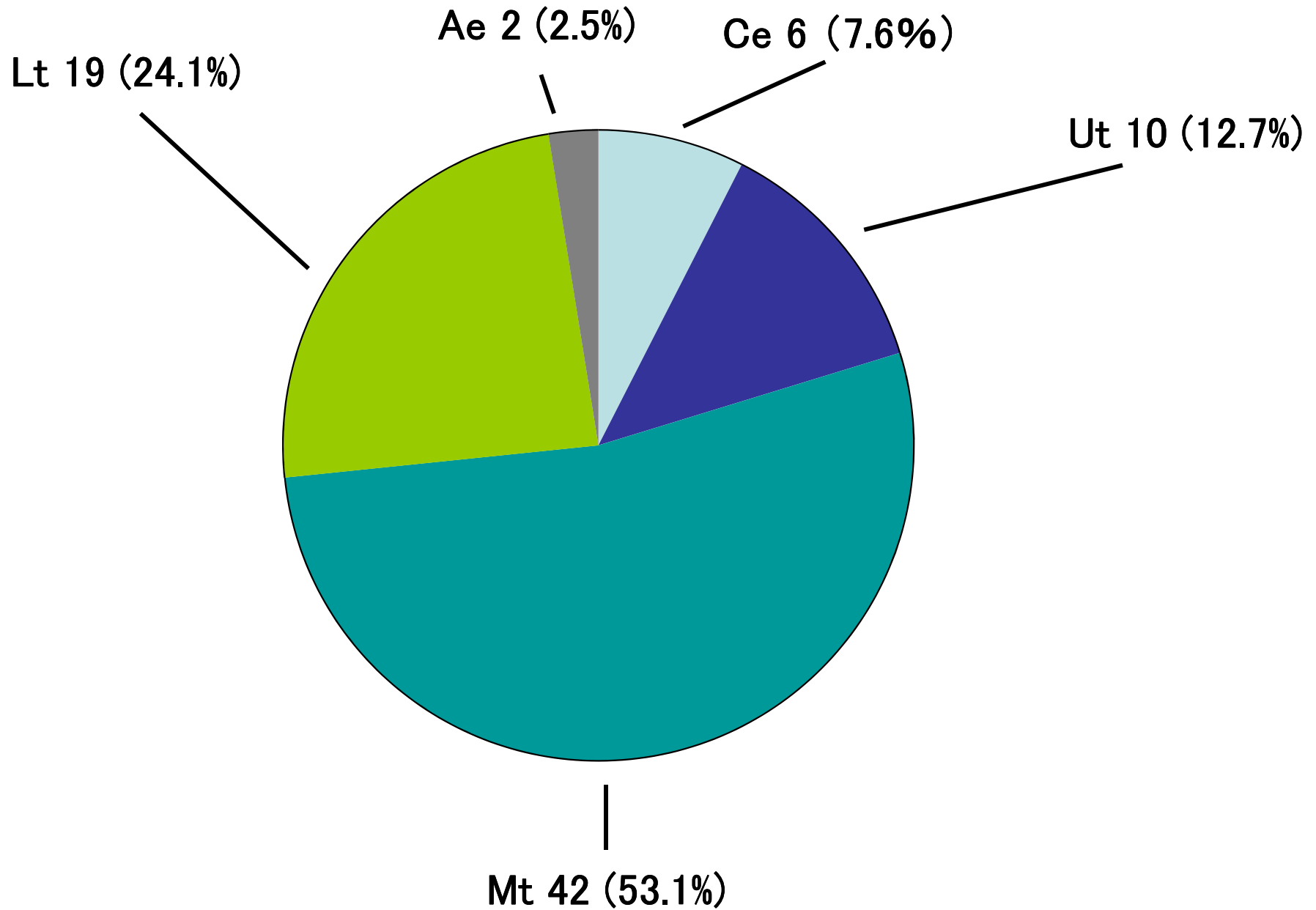
Carcinosarcoma 1

Basaroidcarcinoma 1

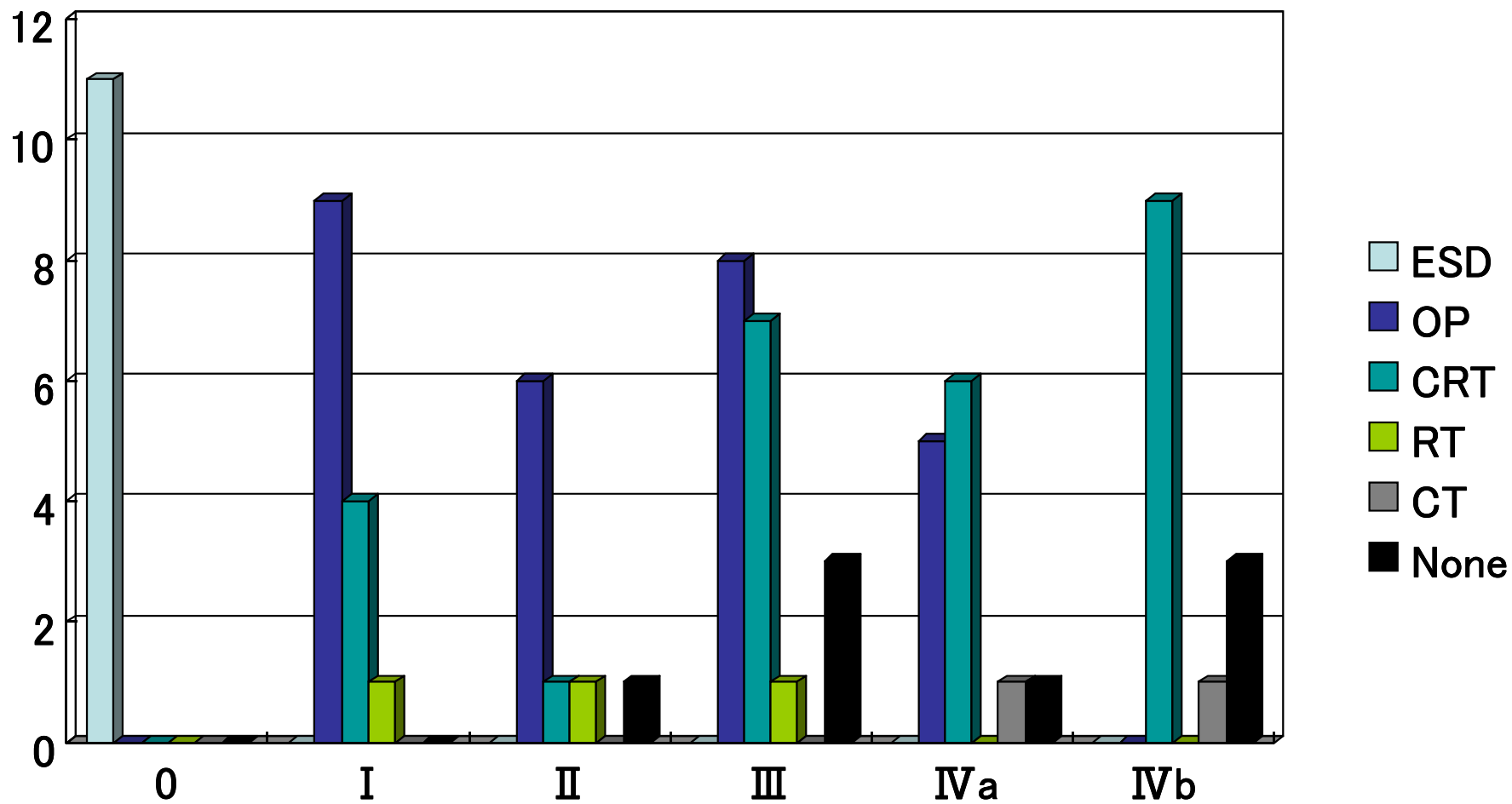
# 病期別割合



# 主病變占拗部位

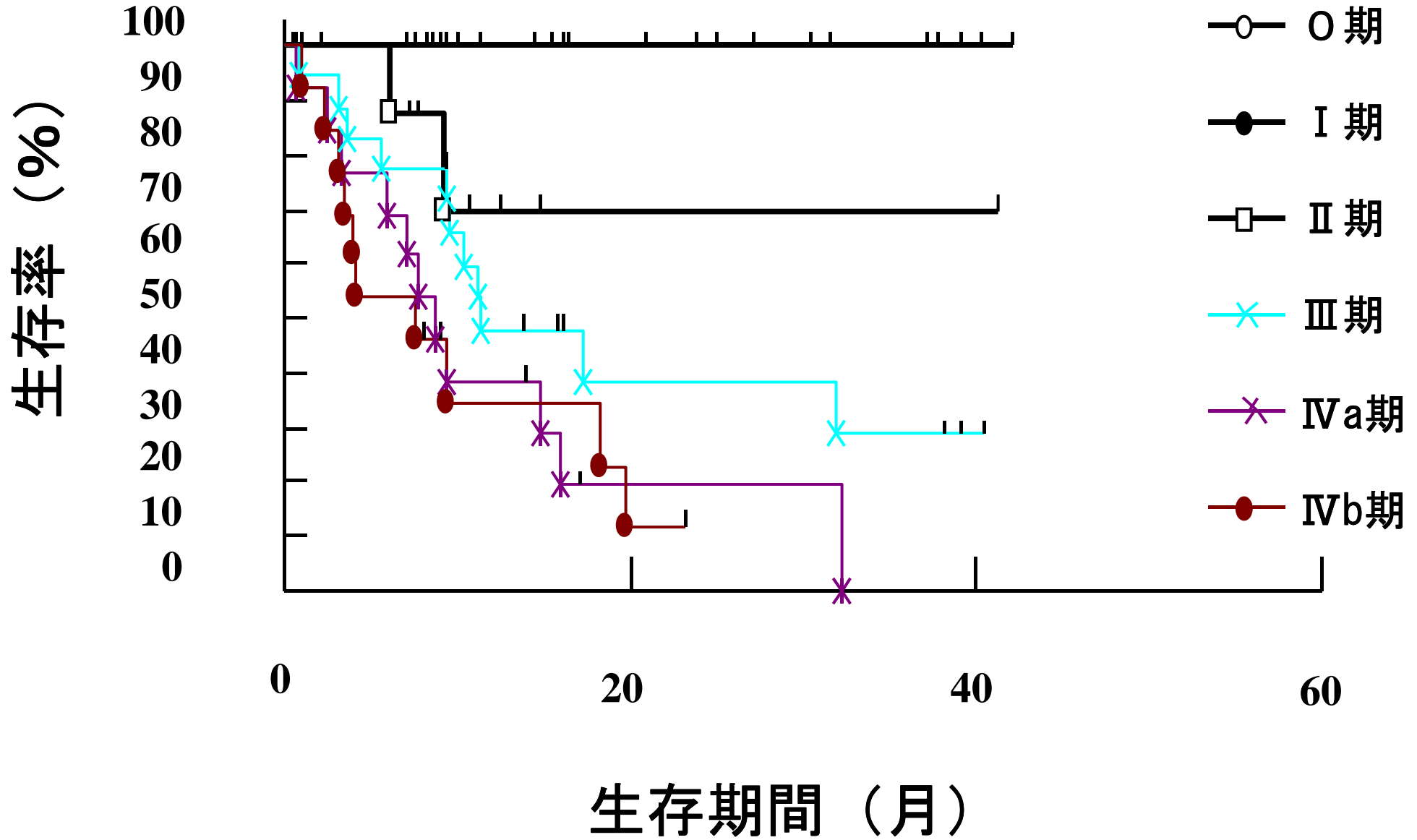


# 病期別治療法





# 病期別全生存率



# CT(非手術例、RT併用例含む)に関する検討

First line 28

Standard FP 17

Low dose FP 10

5-FU 1

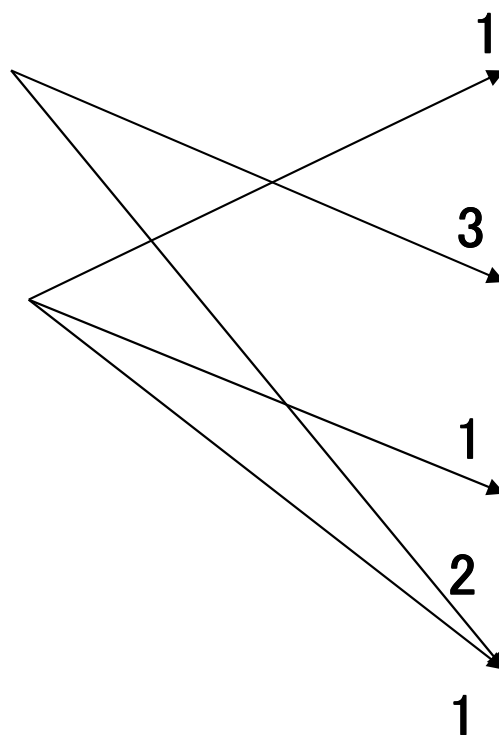
Second line 8

Standard FP 1

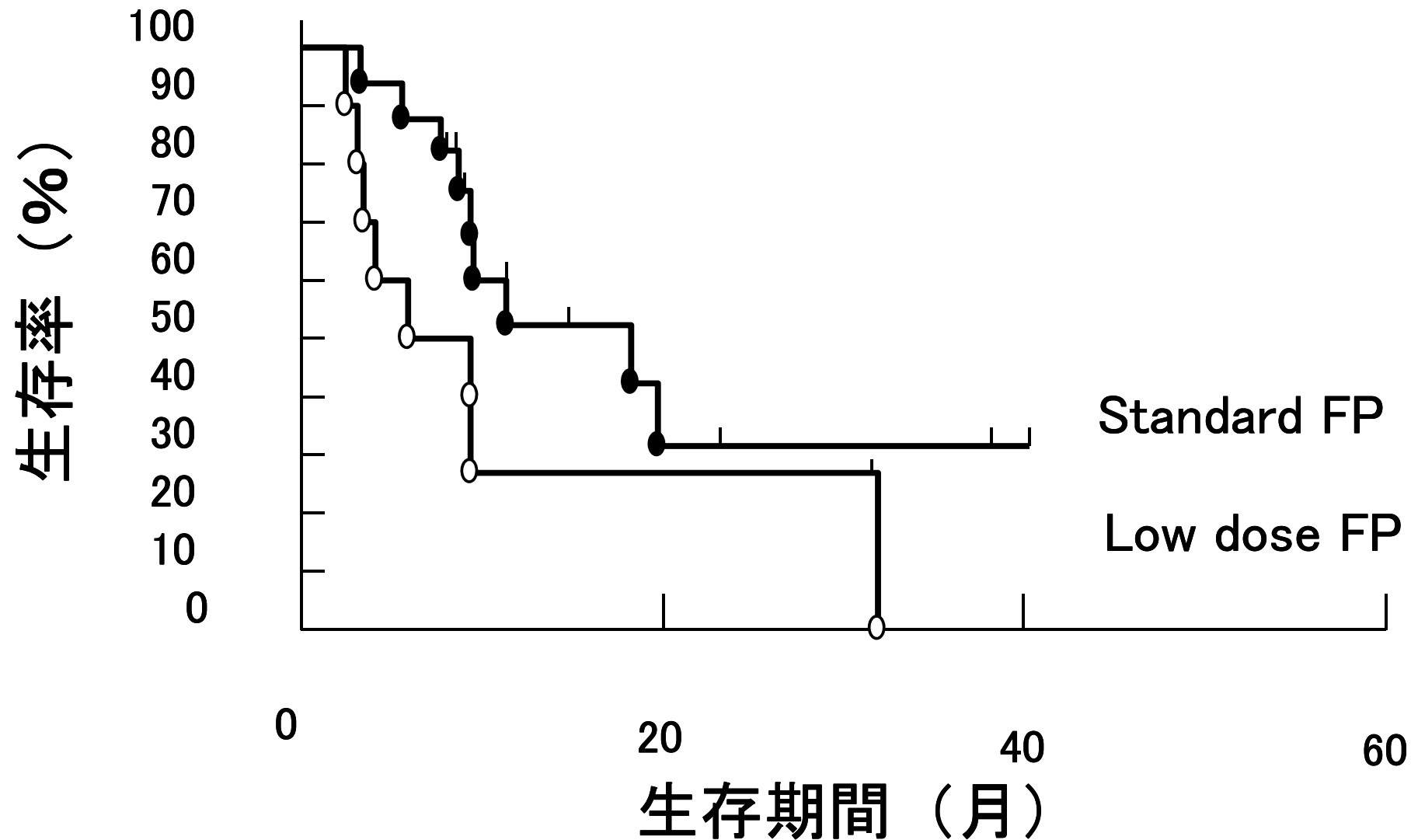
Low dose FP 3

5-FU 1

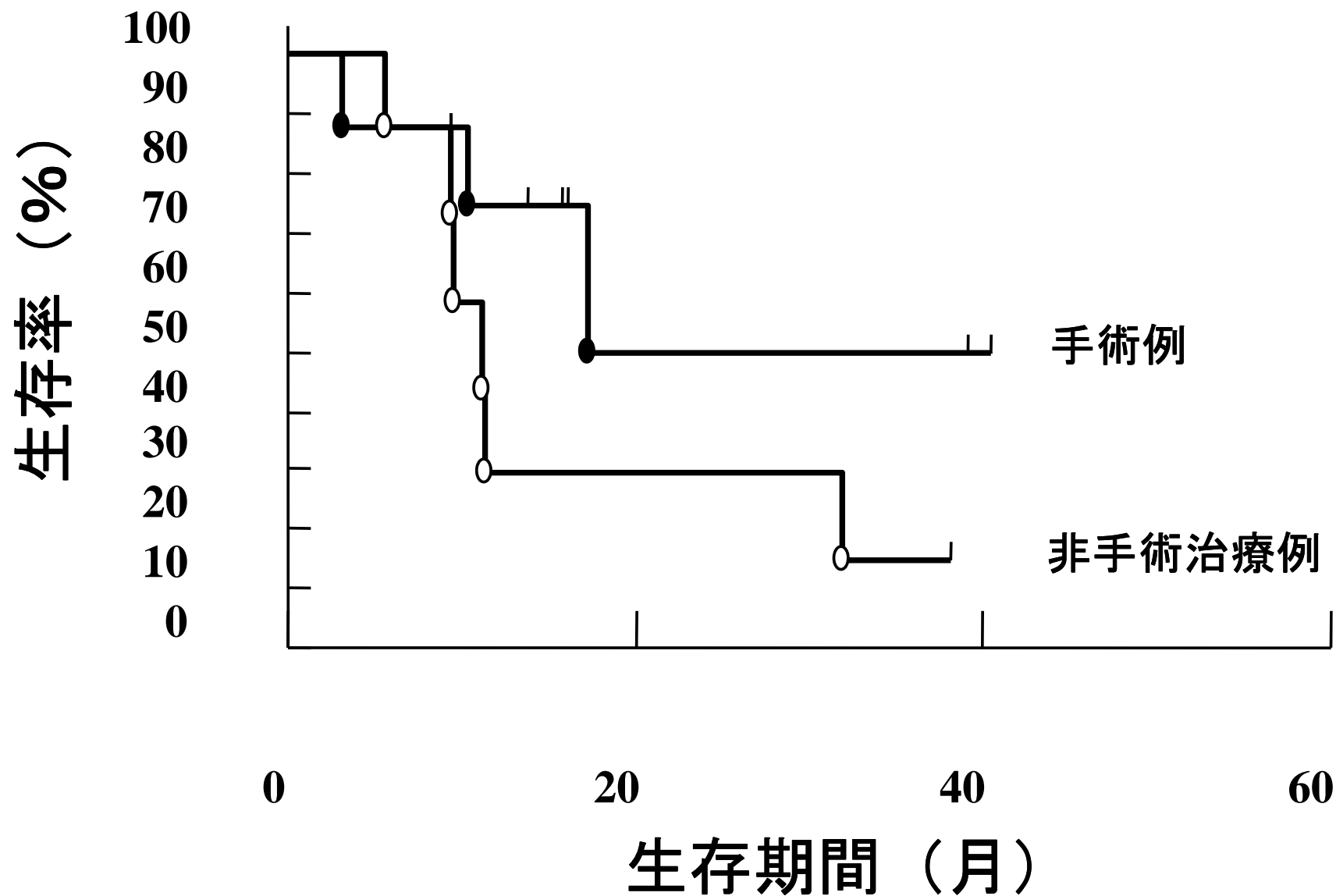
DTX 3



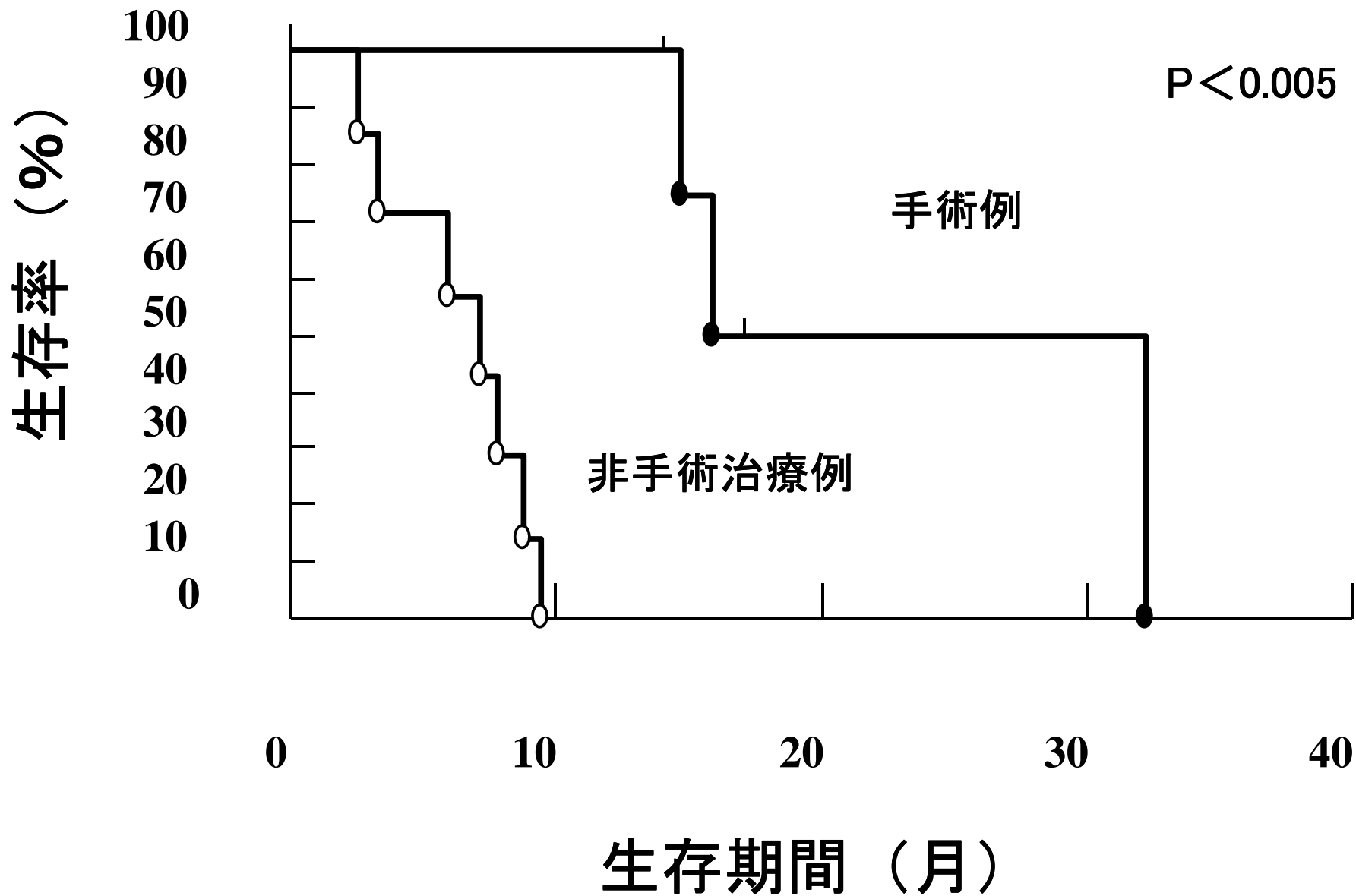
# CTプロトコール別生存率



# Ⅲ期手術例、非手術治療例生存率の比較



# IVa期手術例、非手術治療例生存率の比較



# まとめ

- ・ 年齢は60代、70代が多く、病変部位はMtが53.1%と最も多かった。
- ・ 病期別では各病期とも万遍なく認められたがⅢ期が24.1%と最も多かった。
- ・ MSTはそれぞれⅢ期12.2ヶ月、Ⅳa期9.3ヶ月、Ⅳb期7.8ヶ月であった。
- ・ CRTのみの症例では有意差はないもののLow dose FP療法に比較しStandard FP療法の方が生存率が上回っていた。
- ・ Ⅲ期、Ⅳa期とも手術例の方が非手術治療例より生存率が上回っていた。特にⅣa期では有意差を認めた。

# 結語

- II期とIII期の間に生存率の大きな格差があるため早期発見が極めて重要であり、そのための検診体制の充実が必要と思われる。
- 切除不能例に対する治療成績の改善が今後の課題と思われる。

# 現在の食道癌患者に対する消化器内科における 治療方針

- #1 CT、内視鏡、食道造影、気管支鏡などは原則外来で実施
- #2 Stage、全身状態の評価ができた時点で外科、放射線科  
担当医へコンサルト
- #3 当院としての治療方針を提示
- #4 外科的治療を希望された場合は外科紹介、内科的治療  
を希望された場合RTに併せて入院
- #5 CTを行う場合はRTと同時に開始
- #6 CTはSCCの場合Standard FP、Adenocarcinomaの場  
合TS-1+CDDP併用療法
- #7 RT単独治療期間は原則通院で実施



# 通院RT症例

症例	年齢	性別	stage	診断日	治療法	RT開始日	RT終了日	RT期間 (日)	RT期間中 入院日数	短縮日数	住所
T.A	73	M	O	2009.9.3	ESD+CRT	2010.4.12	2010.5.17	36	14	22	甲府市山宮町
Y.S	56	M	I	2010.2.18	CRT	2010.5.19	2010.7.2	45	7	38	富士川町
M.T	72	M	IVb	2010.4.30	CRT	2010.6.9	2010.7.22	44	14	30	甲府市丸の内
S.A	60	M	IVb	2010.7.12	CRT	2010.8.11	2010.8.31	21	13	8	塩山市
M.M	63	M	IVb	2010.8.20	RT	2010.8.7			44		甲府市宮原町